

令和7年度 大館市立長木小学校 学校評価書（年度）完成版

Well-beingを達成するために身に付けたい
4つのコンピテンシー

やさしさ

正しさ

ねばり強さ

素直さ

令和7年度 後期 地域の方々と関わる取組



公民館祭：ポップコーンとさつまいもの販売活動



老人介護施設：太鼓演奏で元気をお届け



長木保育所：手作り絵本の読み聞かせと
メディアコントロール啓蒙活動



いとくSC：総合的な学習の成果を発表
長木・雪沢地区のすてきな所をアピール

令和8年2月3日（火）大館市立長木小学校

I 令和7年度の学校評価について

令和7年度の学校評価と評価書の概要について

- (1) 令和6年度から、学校評価の参考となる「児童評価」に1・2年生も加えて、児童、保護者、教職員の観点から評価できるようにしています。職員の自己評価は「学校評価一覧」を、「児童評価」「保護者評価」は別紙のアンケート結果をご覧ください。
- (2) 学校評価一覧の自己評価Bは、評価指標の小項目の教職員の自己評価（5段階評価 少数第一位まで）の平均値で示しています。
- (3) 自己評価Aは、学校評価項目I～Vの小項目の自己評価Bの平均で判断します。
- (4) 学校運営協議会評価は、学校からの説明、自己評価B、自己評価A等の結果に基づいて学校運営協議会委員の方々に5段階（極めて良好～努力を要する）で評価いただきます。
- (5) 評価書の横棒グラフは、学校評価一覧の実践課題の達成状況について、児童、保護者、教職員にアンケートを行った結果を示しています。各項目の達成状況については「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した人数の割合を合わせた「肯定的回答」の割合で評価しています。

II 学校評価の基準

協議会 自己評価Aと学校運営 の評価区分	極めて良好	自己評価Bの 評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い/数値目標の100%
	良好		4	実現状況は良好で意識もある/数値目標の81～99%
	概ね良好		3	実現状況はおおむね良好である/数値目標の61～80%
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定/数値目標40～60%
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する/数値目標の39%以下の達成

〈参考〉児童・保護者のアンケートの評価基準、対象者数・回収率

そう思う	A
だいたいそう思う	B
少し不十分	C
不十分	D
分からない	E

調査対象児童数	150名
調査対象保護者世帯数	112世帯
回収世帯数	85世帯
回収率	76%
教職員回答数（評価の一部に記入漏れ有）	10名

令和7年度 SWGsを掲げる長木小 学校経営グランドデザイン

学校教育目標

ふるさとに立ち 心豊かでたくましく 生き生きと学び合う 子どもの育成

教育理念：子ども、保護者、教師、地域、みんながパートナー



目指す子ども像

- 一人一人が自分の力を発揮して、粘り強く課題解決に取り組む子ども
- やさしさと思いやりにあふれ、互いのよさを認め合える子ども
- 前向きに考え、主体的に行動し、共に高め合える子ども

目指す学校像

- 笑顔の花あふれる、やさしい学校～〈児童会テーマ〉
- つながりの中でたくましく生きる力を高める学校
- 子どもが毎日行きたい、教師が楽しく働きたいと思える学校

目指す教師像

- 教育のプロとして自己修養に努め、指導力向上に取り組む教師
- 元気、笑顔、あいさつを大切にしている教師
- チーム長木を大切にしている教師

ふるさとを担う「未来大館市民」

〈おおだて型学力：自立の気概と能力を備え、ふるさとの未来を切り拓く総合的人間力〉の育成

4つのコンピテンシーを育成するNAGAKIの3ステップ

やさしさ

共感する力
いっしょ 親切 思いやり
やさしい言葉と行動

正しさ

正しく判断する力
ルールを守る 自分事
として考え、行動する

ねばり強
さ

向上心
忍耐力 打たれ強さ
最後までやり抜く

素直さ

柔軟性
相手を受け入れる
人の話を聞く 積極性

Step 3 長木小の最重点PJ

未来大館市民を
育てる三つの
重点活動



⑬あじさい・エソタンポポPJ



⑭鳳凰太鼓・鹿島太鼓の継承



⑮保小連携・地域連携

Step 2 各指導部の重点戦略

学習指導部(学力づくり)
ねばり強さ 伝え合う力

- ⑪鍛える「ねばねばタイム」の実施(百マス計算、漢字練習)
- ⑨英語タイムで英語力向上
- ⑰高め合う学習発表会

特活・生徒指導(絆づくり)
自ら行動する力

- ①心をつなぐあいさつの励行
- ②やさしい言葉づかいの推奨
- ⑩自治的な児童・学級活動の推進

保健体育指導(健康づくり)
健康な心と体

- ⑧シン NAGAKIオリンピックの実施
- ④メテアコントロールの充実
- ③ルール、マナーを守る給食指導

Step1 子どもたちによる実践活動

Well-beingな学校であり続けるための17の実践目標

SUSTAINABLE WELL-BEING GOALS

3 ルールを守ろう 責任をもとう	4 メディアコントロールに取り組み	5 いじめをなくそう	6 学校をきれいに つかおう	7 健康をたいせつ にしよう	8 体力づくりを しよう	1 明るいあいさつ をしよう	2 やさしい言葉づ かいをしよう
11 最後までねばり 強く取り組み	12 本をたくさん 読もう	13 学校の伝統を 守ろう	14 ボランティア に参加しよう	15 人と、地域と つながろう	16 地域を花でいっ ぱいにしよう	9 すずんで発表、 表現しよう	10 話し合って解決 しよう

IV 項目別評価

学校教育目標の実現と4つの能力（コンピテンシー）

児童の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
17の実践目標の活動に具体的に取り組む中で、子どもなりに4つのコンピテンシーの意味を捉えながら、学校づくりに参画している。	前期	概ね良好	概ね良好	それぞれに好き嫌い、得手不得手がある子どもたちに興味をもたせるにはどうすれば良いか、保育所でも同様である。嫌な物（こと）は食べない（しない）が目立つ。保小連携を軸に長木地区の子を育てていってほしい。児童の良さ・強みを意図的に大人が自覚させていく。
	後期	概ね良好	良好	コンピテンシー育成の成果として、授業参観で児童の様子を捉えた。各学級で話を聞く姿勢に力を入れている。話をする子へすぐに注目できている学級が多い。先生がかかる前向きな言葉が、子どもの中に浸透している。大きく評価の上下した項目の根拠を示してほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期】児童アンケート調査に、児童会テーマと17の実践目標に関する調査項目を加え、児童アンケートの調査対象は全学年とした。児童会テーマ等を、ましてや低学年が評価することは難しい面があると思われるが、自分たちの行っている様々な教育活動が何のために行われているのかを、児童の発達段階の理解度に応じて継続的に捉えさせていくことは、それなりに意味あるものとする。

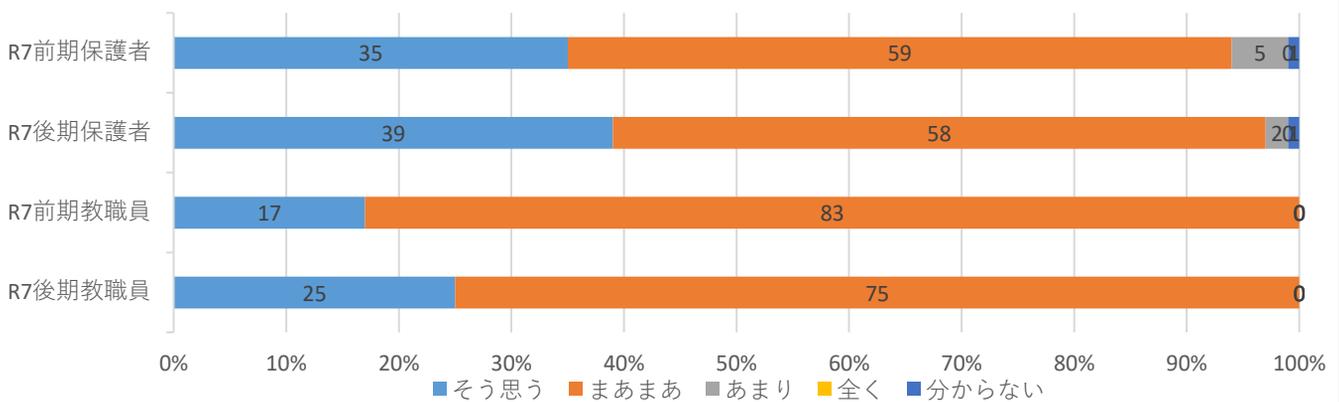
学校教育目標の保護者の肯定割合は94（昨年度比－1）、教職員は肯定割合100（±0）。年度をまたぎメンバーが数名変わっても、肯定割合が100のままであることは、学校経営の姿勢として揺るがないものが出来上がっていると言える。4つのコンピテンシーは、文言を変更したため直接の項目の比較はできないが、保護者と教職員で評価が高い項目（やさしさ・正しさ）と低い項目（ねばり強さ）が一致している。児童の評価では「ねばり強さ」がもっとも高い数値を示している。「ねばり強さ」については、保護者と児童の肯定ポイントの差が21にも広がっている。後期以降の目標は、全ての項目で肯定的割合が90%以上かつ、「そう思う」の割合が過半数を越えることである。そのためにも17の実践目標の具現化を通して「なりたい自分・できる自分」の姿を実感し、全校児童が学校づくりに一緒に取り組む学校を今後も目指していきたい。

【年度】学校教育目標達成の肯定割合は、保護者も職員も高い数値内で若干上向いた。4つのコンピテンシーでは、「ねばり強さ」「素直さ」で児童・保護者が揃って肯定的回答の割合が増えた。この2項目では教職員のアンケートと評価一覧の回答結果にねじれが生じた。設問文に「向上心と忍耐力」「聞いて理解し」という文言の有無により、評価一覧の数値がやや下がったと思われる。この部分に本校児童の課題が潜んでいると捉えられる。また、教職員の回答から、17の実践目標については「ルールを守ろう・責任をもとう」が取り組むべき課題として残っていることも伺える。さらに、児童の回答に「やさしさ」が3ポイントダウン、「いじめのないすげやすい学校ですか」が4ポイントダウンという関連が見られる。児童会テーマに「笑顔の花あふれる、やさしい学校」を掲げているが、実践できていないと考えられる。言葉遣いやお互いの接し方、協働する活動など、意図的な仕掛けが必要と考える。Well-Beingな学校作りのための土台に関わる部分と認識し、次年度にかけて働きかけていきたい。

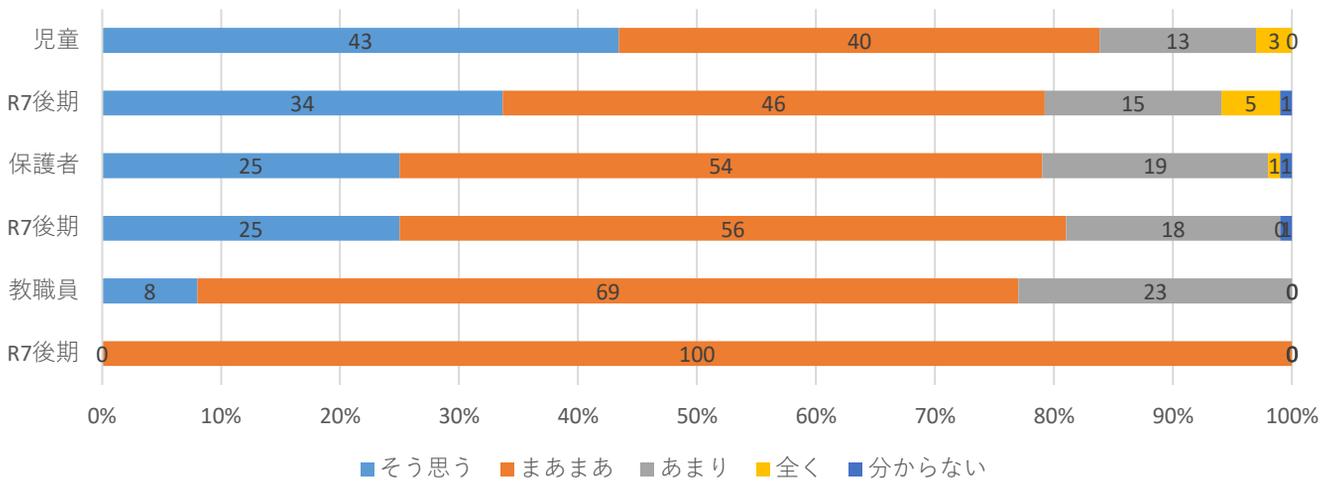
評価指標	評価指標の内容	自己評価B	
		R7前期	R7年度
学校教育目標	ふるさとに立ち心豊かでたくましく生き生きと学び合う子どもの育成	3.8	4.0
やさしさ	相手に共感をもって接し、思いやりとあったか言葉で行動している。	3.6	3.7
正しさ	善悪を正しく判断し、規則を守って生活している。	3.7	3.4
ねばり強さ	向上心と忍耐力をもち、失敗しても気持ちを切り替えて、活動に取り組んでいる。	3.6	3.4
素直さ	相手の話をよく聞いて理解し、落ち着いて考えて行動している。	3.8	3.7
17の達成目標	子どもたちは17の達成目標を意識し、「笑顔の花あふれるやさしい学校」になるよう考えて、生活している。	肯定ポイント77	肯定ポイント78

【評価指標】 学校教育目標・身に付けさせたい能力（コンピテンシー）

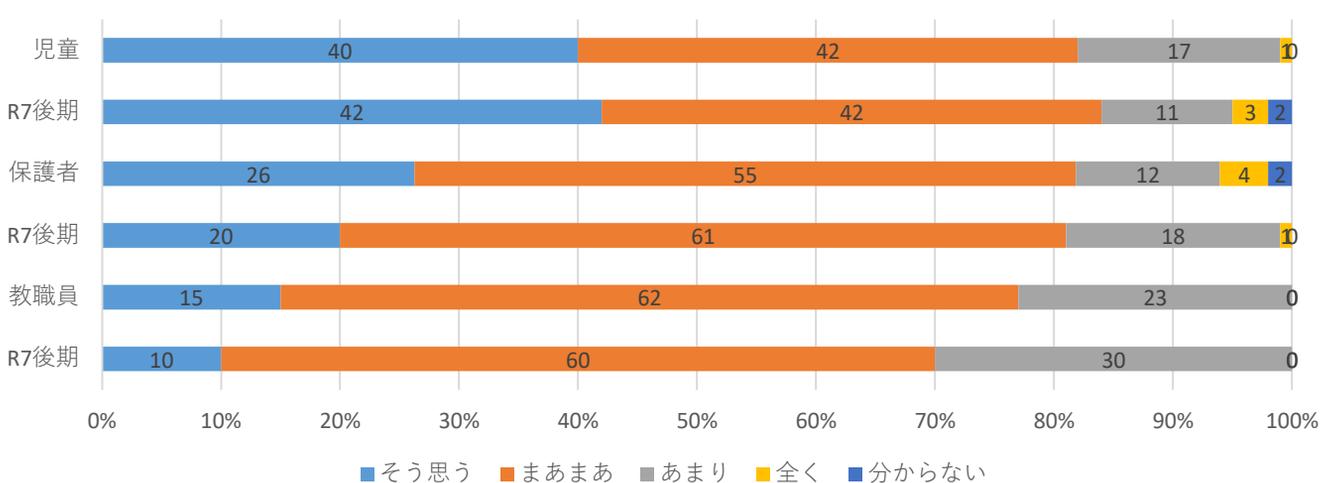
【学校教育目標】 学校は、学校教育目標の実現のための教育活動を実施している。



やさしさ

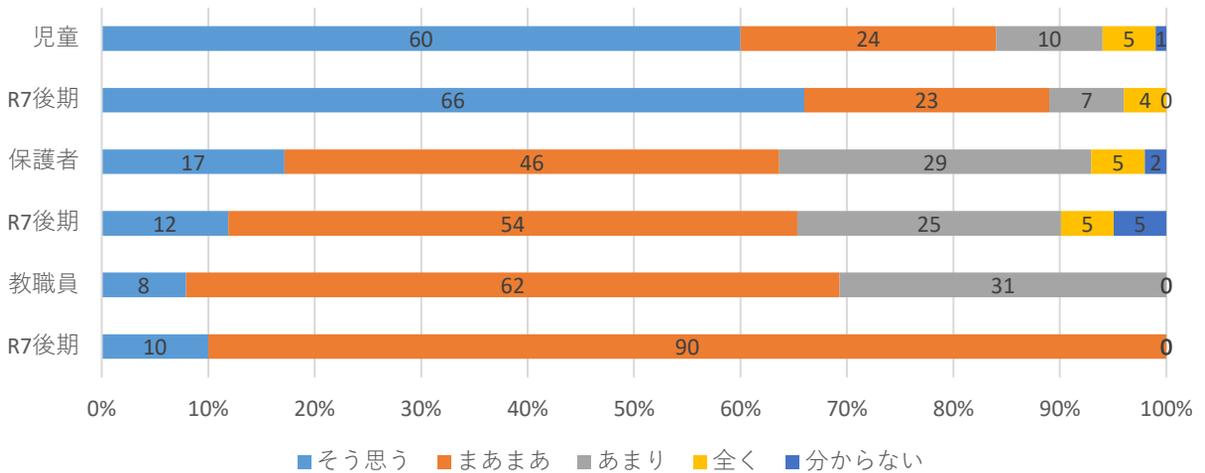


正しさ

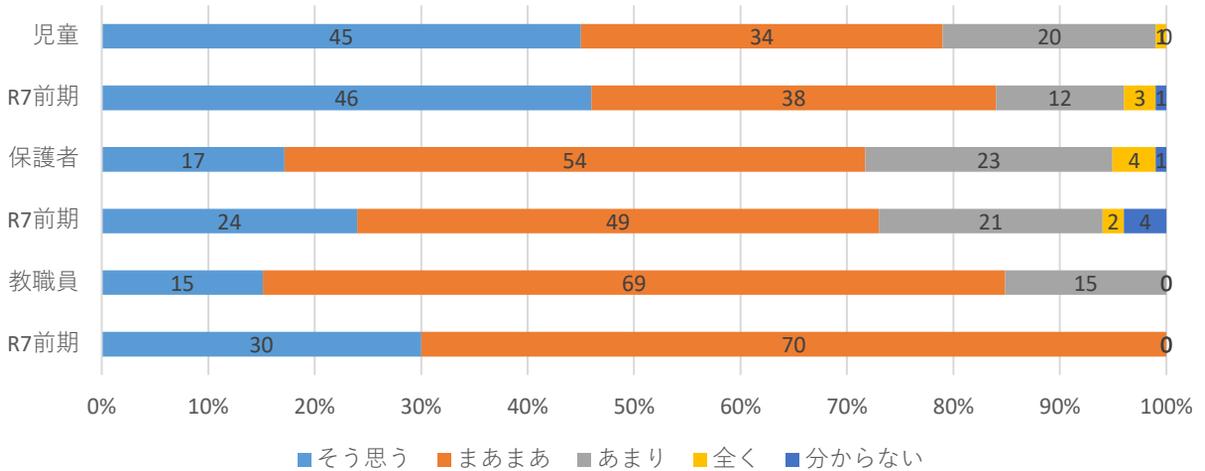


【評価指標】 学校教育目標・身に付けさせたい能力（コンピテンシー）

ねばり強さ

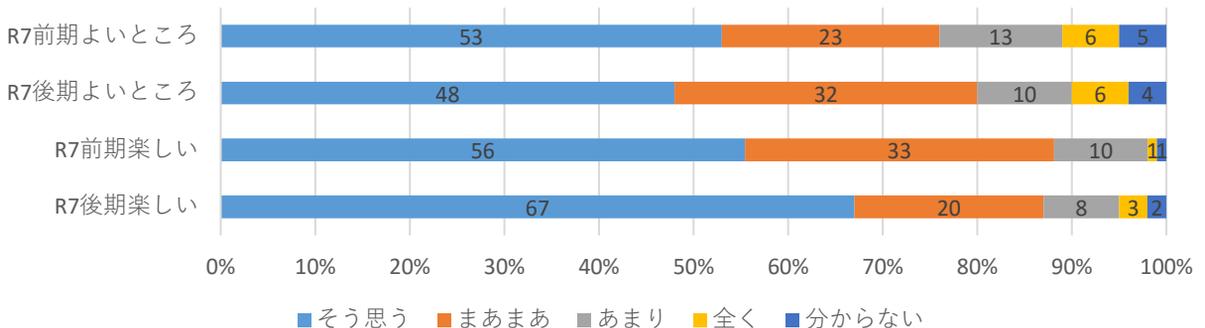


素直さ

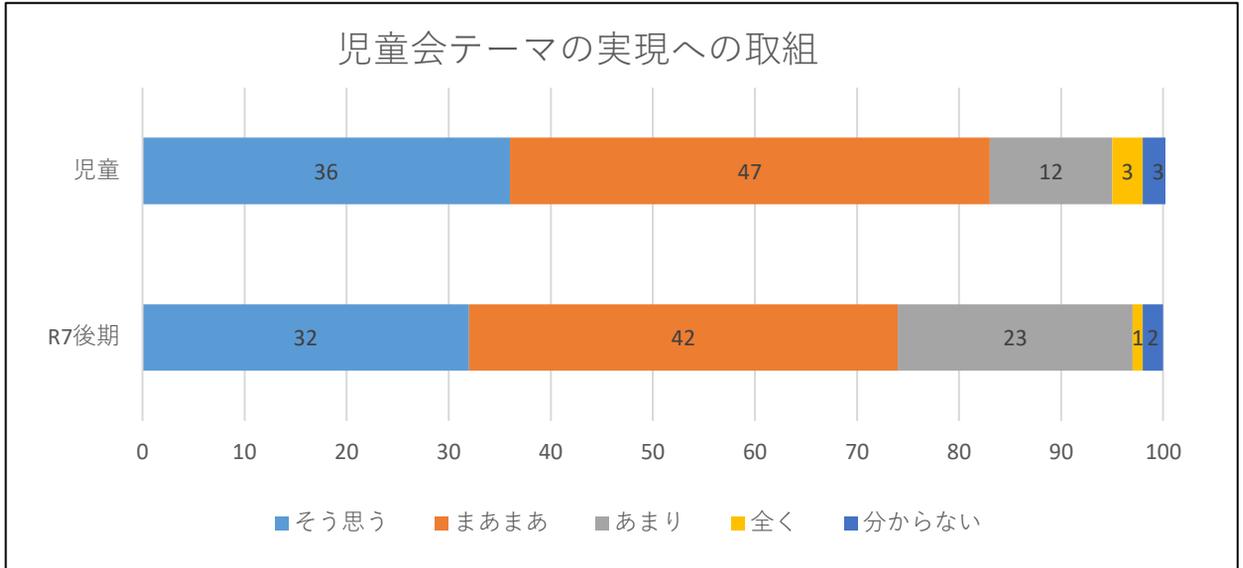


Well-Beingに係る項目

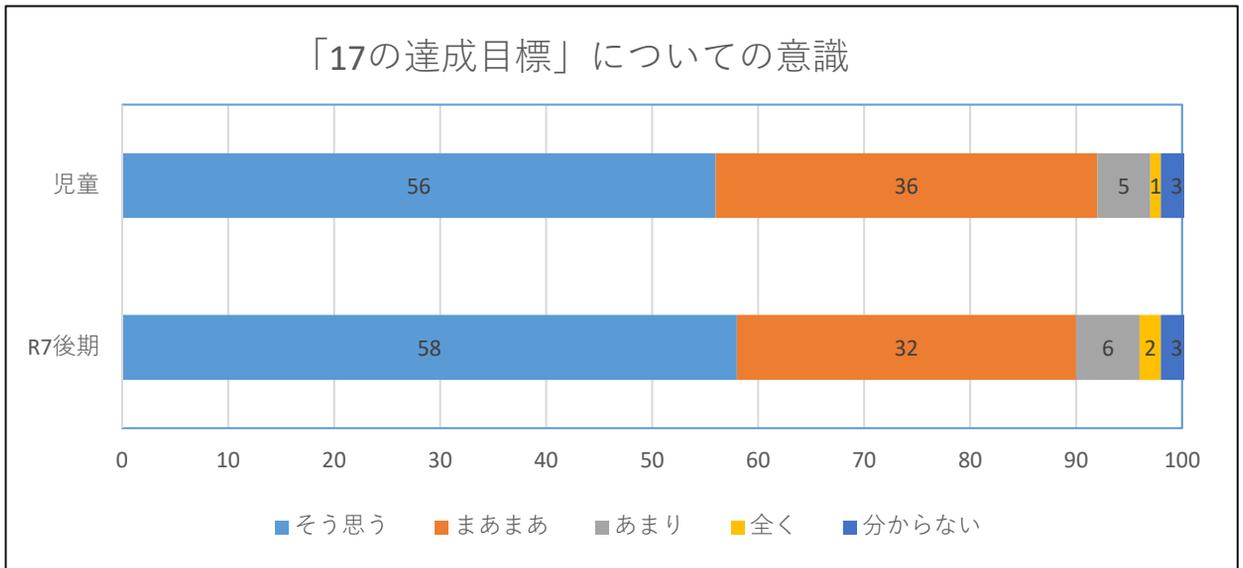
〈自分にはよいところがある〉 〈学校が楽しい〉



【参考データ1】 児童会テーマ「笑顔の花あふれる、やさしい学校」になるように考えて、活動していますか。



【参考データ2】 「17の達成目標」は、学校や家での生活をよりよくするために役立っていると思いますか。



IV 項目別評価

1 社会性の育成

児童の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な生活習慣を身に付け、規律ある態度で協力し合い、主体的で充実した学校生活を送ろうとしている。	前期	概ね良好	概ね良好	ふだんから、声は小さくても心がこもっているあいさつができる児童が特に高学年に多いと感じている。遊んでいる時の乱暴な言葉遣いには、気になるところのある児童もいる。
	後期	良好	良好	後期の方が児童も自分の姿をより客観的に見えてきて現実を反映していると思う。本音と建て前を使い分けている児童もいると思う。学校側が児童のオンラインゲームでのやり取りを見つけないのは無理。それは家庭の問題。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期】この領域は、保護者の評価が総じて低い結果になっている。「元気なあいさつ」62(-11)に対して、児童は90(-2)。さらに教職員は69(-9)。学級ごとの朝のあいさつ運動等の取組により、児童自身はがんばっている意識が高いと思われる。保護者・教職員の評価の低さは、大人目線で見るとまだまだ不十分ということであろう。子ども自身は、しっかりあいさつしているつもりでも、声が小さかったり相手を見ていなかったりしている己の姿を感じさせる取組が必要と感じる。2学期以降の重点項目である。

保護者評価が高かったのは「自分の役割を果たす」83(-6)。児童90(±0)、教職員92(+7)。4年以上の委員会活動、各学級の係活動や当番活動、全校縦割り班による清掃・給食活動が、正しく機能し、校内での頑張りが評価されており、児童自身も活動・取組に手応えを感じているものと思われる。

昨年度前期の評価においても、「あいさつや言葉遣いに関する児童と大人の評価のギャップをどう埋めていくのか」「あいさつや言葉遣いにごう家庭を関わらせていくのか」が、課題に挙げられていた。あじさいPJや地域の施設訪問など、地域の方々と関わる場面も効果的に活用することで、望ましい社会性の育成に取り組んでいきたい。

【年度】教職員の自己評価のポイントは、4項目において上向いた。特にあいさつは、通常のあいさつ運動の日に学年を問わず有志の参加も募り活動することで、児童全体のあいさつへの意識が高まってきた。それは、児童・保護者の数値向上としても現れている。児童72(-5)・保護者73(-7)・教職員80(-20)ともに数値が下がっているのが「生活の約束を守る」という項目である。児童への設問文には、「名札、忘れ物、廊下歩行」を特に挙げている。学習や学校生活を成立させる基本の部分であらためて見直していかなければならない。コンピテンシーの評価で挙げられた「いじめ」に関わる部分とともに学校全体で取組みを各分掌で検討していきたい。

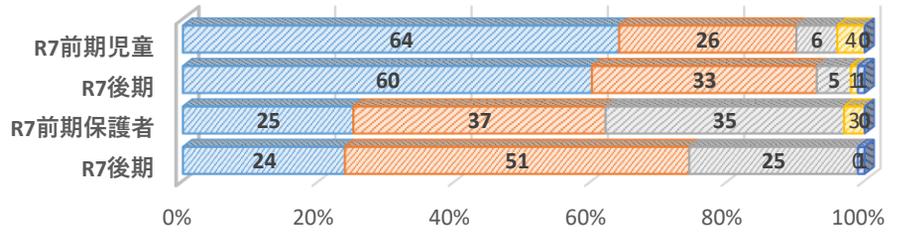
評価指標	評価指標の内容	主な取組	自己評価B	
			R7前期	R7後期
(1) 基本的な生活習慣の定着	① 明るいあいさつと思いやりのある言葉遣いの励行	登下校時や校外でのあいさつの指導 相手や場に応じた言葉遣いの指導	3.4	3.8
	② 生活の約束を守る姿勢・態度の定着	長木っ子の約束の徹底(持ち物・服装・礼儀・自転車乗り等)		
(2) 集団生活・集団行動の遵守	③ 学校づくりに参画する意欲と実践力の育成	児童会活動(委員会活動、子ども集会) 児童総会 正課クラブ活動	4.1	4.0
	④ 自分の行動に責任をもち、互いのよさを生かし認め合う態度の育成	係活動 学級会 縦割り班活動 全校道徳輝き合い集会(表彰集会) 絆タイム 「ココロの授業」の実施		
(3) 組織的な生徒指導	⑤ 問題行動の未然防止・早期発見、即時対応、生徒指導体制の確立	長木っ子を語る会 個人面談 教育相談 定期的ないじめ等の調査 外部機関の活用・連携	4.3	4.4

【評価指標（1）】 基本的な生活習慣の定着

■ そう思う ■ まあまあ ■ あまり ■ 全く ■ 分からない

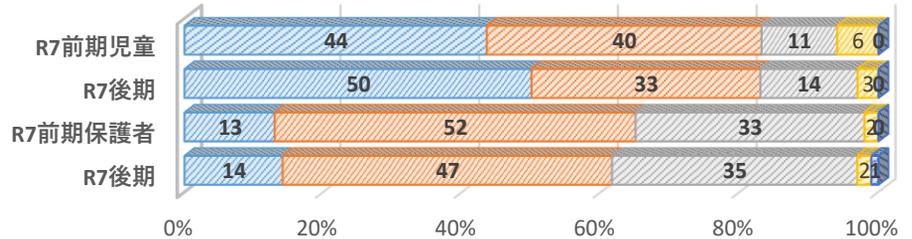
児童：友達や先生、地域の方々に元気にあいさつをしていますか。

保護者：子どもたちは、ご家庭や町内で元気なあいさつをしていますか。



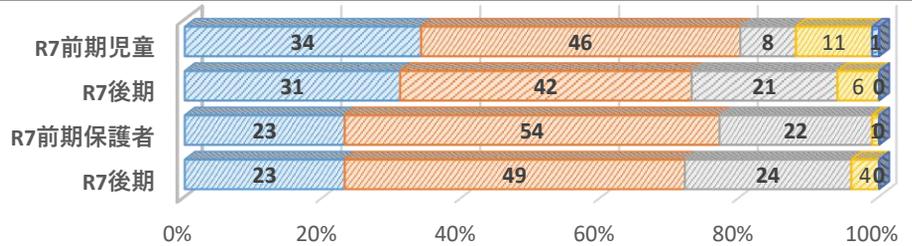
児童：相手や場所を考えた言葉づかいをしていますか。

保護者：子どもたちは、相手や場に応じた正しい言葉づかいができていますか。



児童：名札を付けたり、学習用具を忘れずに持ってきたり、ろうかを静かに歩いたりしていますか。

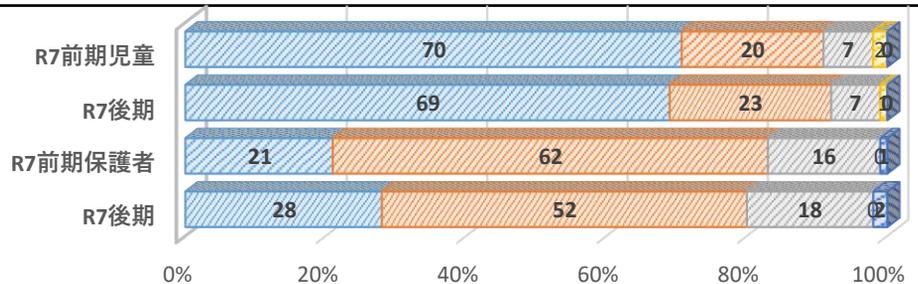
保護者：子どもたちは、学校や家庭で約束を守ろうとしていますか。



【評価指標（2）】 集団生活・集団行動の遵守

児童：学級の係活動、給食・そうじ、委員会の当番活動など、自分の仕事を責任をもって行っていますか。

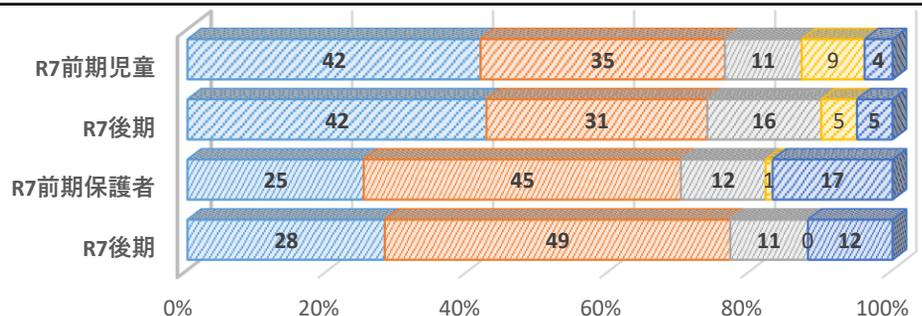
保護者：子どもたちは、学校や家で自分の役割を果たそうとしていますか。



【評価指標（3）】 組織的な生徒指導

児童：あなたにとっていじめなどのない、過ごしやすい学校ですか。

保護者：学校は、いじめ等のない安心できる学校づくりに取り組んでいますか。



IV 項目別評価

2 健康安全の保持と体力の向上

児童の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
食育や運動を通じて健康や体力に関心を持ち、また、避難訓練等を通して身の守り方を身に付け、健康で安全な生活を心がけている。	前期	良好	良好	保育所でも中学校でもメディア対策に苦勞している。こまめに、お便り等も交え医学的根拠を元に言い続ける。子ども自身に考えさせる。スマホ子育てが子どもの自己有用感を奪い、不登校へつなげる可能性が非常に高い。親自身も偏食の場合、食育が難しい面がある。
	後期	概ね良好	概ね良好	交通安全に関しては、横に広がって歩かないなど基本の指導の徹底をこれからもお願いしたい。今後に備えて熊出没への対策を明確にしていってほしい。

自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】この項目では、児童・保護者・教職員ともに、「基本的生活習慣」「安全指導」「体力増進・健康指導」の面では、高い評価で推移している。</p> <p>興味深いのは、児童の「メディア・コントロール」についての自己評価が8ポイント下がっている(82→74)点である。本校独自で行ってきた「メディアチェンジ」や、医師による明確な根拠のある講話を聞く機会、長木保育所や中学校と連携した取組によって、メディア対応の理想と現実のギャップを児童自身が感じているという結果、「分かっちゃいるけど、やめられない」という状態が現れていると推測される。メディアコントロールについては、児童の生活改善だけでなく、メディアを与える、あるいは一緒に使用している保護者への啓発も含まれることから、昨年度から長木保育所と合同のメディアコントロールに関する取組を展開しており、ぜひ継続していきたい。</p> <p>児童の安全に関しては、避難訓練の実効性を高めるため、最も危険度の高い不審者対応訓練を4月中に実施している。体力テストでは県平均を上回っている学年は多いが、「てくてく歩こうDAY」で月に1回、車に頼らない日を設け、児童の心身の鍛錬を図っている。</p>
	<p>【年度】教職員の評価では多くの項目で数値が下がってしまった分野である。メディア利用に関しては、保小中連携のメディアコントロール運動やメディアチェンジの取組の効果で児童の数値はやや上がっている。学校の取組に対する保護者の評価も高止まりである。2学期は熊出没時の対応に振り回された期間であった。外遊び・外体育の制限、休日の行動についてのお願ひ、保護者への送迎依頼、保護者への確実な引き渡し等、様々な配慮・検討する点があり、緊急時対応について学校としての学びが深まった期間でもあった。今後の対応策に活かせる材料が積み重ねられた。新体力テストの結果の活用という面では、その分析・取組が不十分であった。体育の授業中心に、3学期にできる限り対応していきたい。</p>

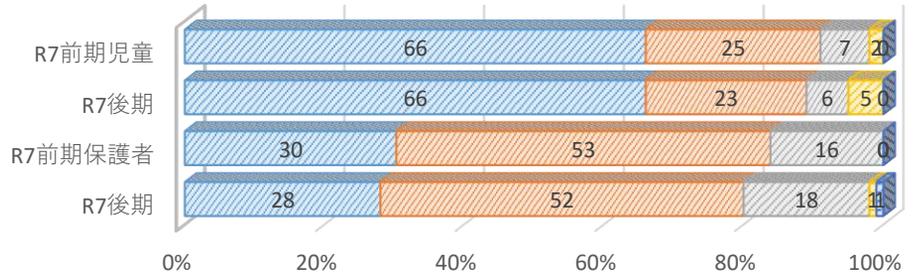
評価指標	評価指標の内容	主な取組	自己評価 B	
			R 7 前期	R 7 後期
(4) 健康教育、食育、安全教育の推進	⑥生活習慣の定着・改善	生活習慣の定着とメディアに関する実態調査・分析・指導 メディアコントロール週間の実施 保健指導の充実 栄養士による食育指導 学校保健委員会	4.2	4.1
	⑦安全教育の充実と組織的な取組	交通安全教室 避難訓練 危険箇所点検 登下校指導 メール配信システムの活用 PTA・地域子ども見守り隊との連携 スクールガードリーダーの活用		
(5) 体力づくり	⑧さわやかマラソン・業間運動への積極的な取組	さわやかマラソン 記録会の実施 外遊びの奨励 てくてく歩こう運動	3.9	3.7
	⑨新体力テストの結果の向上	結果の分析・活用 体育での補強		

【評価指標（4）】健康教育、食育、安全教育の推進

■ そう思う ■ まあまあ ■ あまり ■ 全く ■ 分からない

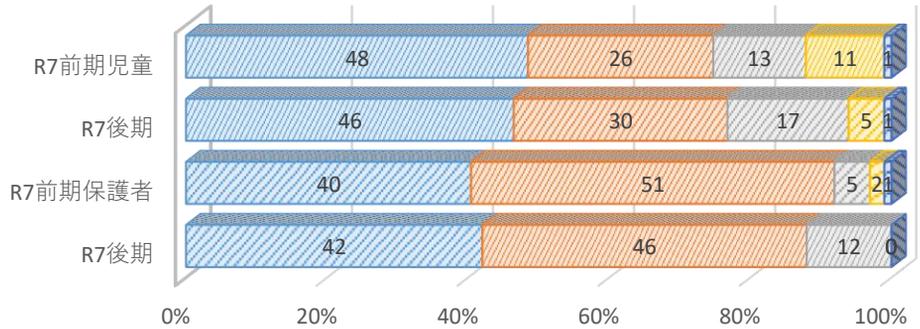
児童：「早ね、早おき、朝ごはん、歯みがき」をしつかりしていますか。

保護者：子どもたちは、「早寝、早起き、朝ご飯、歯みがき」などの基本的な生活習慣が身に付いていますか。



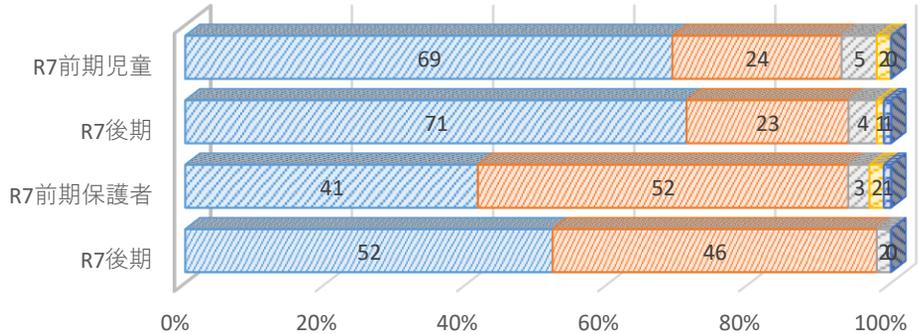
児童：時間を決めて、ゲームをしたり動画を見たりしていますか。

保護者：学校は、メディアコントロール・食育指導等、子どもたちの生活習慣を改善するための取組をしていますか。



児童：地震や火事などのときの身の守り方や、交通安全のルールをしっかり身に付けていますか。

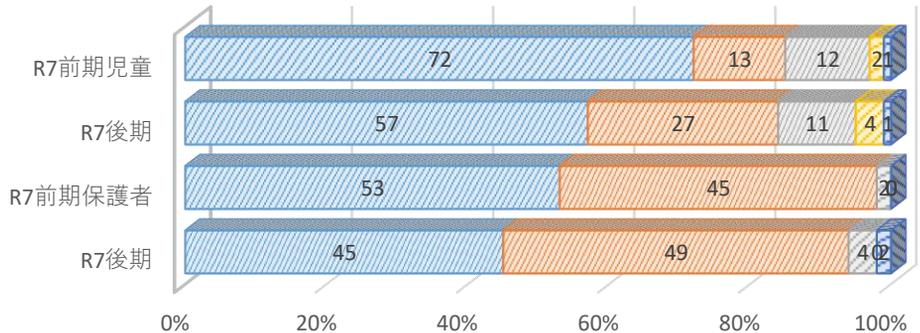
保護者：学校は、避難訓練や交通安全教室、登校指導等を通して、児童の安全対策を取っていますか。



【評価指標（5）】体力づくり

児童：さわやかマラソン、てくてく歩こう運動、ふだんの外遊びなどで、よく体を動かしていますか。

保護者：学校は、さわやかマラソン・てくてく歩こう運動・外遊びの奨励等を通して、児童の体力向上・健康増進に取り組んでいますか。



IV 項目別評価

3 確かな学力

児童の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
意欲的に学習に取り組み、基本的な学習習慣を身に付けながら、学力を向上させようとしている。	前期	概ね良好	概ね良好	学習規律がしっかりしていて、学年が上がるほどレベルも上がっている。学習意欲が感じられ課題に対してきちんと入っている。各学年にトUBLEブルの児童が数名ずついる。支援員のサポートも的確であるが、もっと人数が必要と感じた。間違いを「ナイスチャレンジ」と評価し、児童を否定しないやり取りも素晴らしい。タブレットのセキュリティを適切に設定する必要がある。
	後期	良好	概ね良好	どのレベルの児童に合わせて授業を展開していくかの検討が必要。解答も添えて宿題を持たせるのはいかがなものか。答があれば写す子もいるだろう。高学年でも親に見届けてもらう習慣をつけなければならない。学力のばらつきは取り組みの差。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期】家庭学習の習慣は、保護者・児童・教職員共に肯定回答率が84～92%と評価は高い方ではあるが、評価の内容はあくまでも「習慣が付いているかどうか」であり、次の課題はその内容である。家庭学習の質の向上を目指し各学級での指導を重ね、「保護者面談での助言」や「家庭学習ノート展」、「校長がノートを見る期間」を設けること等で、児童に刺激を与えていきたい。

授業における話し合い活動については、所長訪問でも指摘を受けており、適切な課題の設定や魅力ある発問の工夫、かがやきタイムでの児童主体の話し合いの経験の積み重ねが重要になる。「子どもに任せる覚悟」を教師がもち、意図的に授業を構成していくことで数値の伸びが期待される。本校の授業改善の大きな課題である。

読書活動については、児童・保護者共に、やや低めの数値から抜け出せていない。学校での読書タイムでは夢中になって読んでいる子も多く、児童同士の読み聞かせ活動に取り組んでいる学年もある。学校報に、校長からのおすすめ本の紹介コーナーを設けてみると、読書好きの児童からの反応はあった。教師からの指導ではなく、委員会活動と関連させた主体的な取組みで、読書の更なる習慣化を図ってきたい。

【年度】概ね肯定的評価の数値が上向している傾向ではある。児童の「分かりやすい授業」の評価が高い割には諸検査の数値に反映されていない部分がある。児童にとって分かりやすく「教えてくれる」は、「主体的に考え学ぶ」意識を阻害しているとも考えられるのだろうか。前期同様、児童主体の話し合いの積み重ね等、学校全体で授業改善に取り組んでいく必要があると思われる。

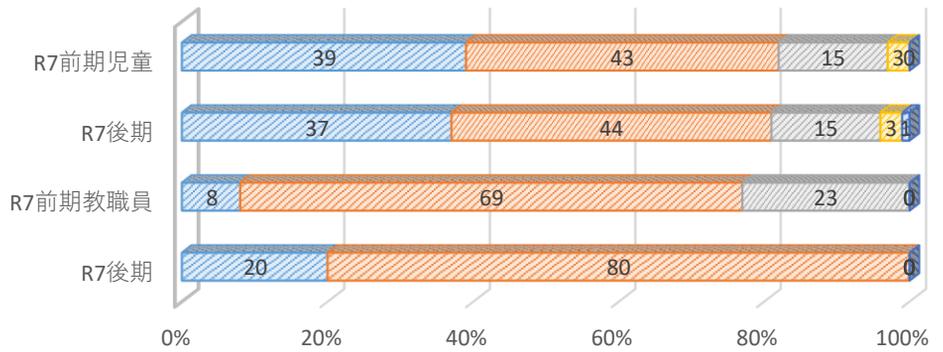
評価指標	評価指標の内容	主な取組	自己評価B	
			R7前期	R7後期
(6) 学習への取組	⑩基本的な学習習慣の定着	学習の約束（チャイム席・準備・聞き方・話し方等）家庭学習の習慣化 学習内容の洗練	3.8	4.0
	⑪学習内容の基礎・基本の確かな定着	長木検定 パワーアップタイム ねばねばタイム 全校漢字テスト		
	⑫課題解決的で共感的な学び合いの推進	課題解決的な単元構想 かがやきタイムの充実 ICTの活用		
	⑬読書活動の推進	読書タイム 読書運動 週末読書 よむよむリストの活用		
(7) 諸学習調査の状況	⑭学習状況調査等の分析と改善	学習状況調査・CRTの結果分析と活用 及び補充指導	3.7	4.0

【評価指標（6）】学習への取組

■ そう思う ■ まあまあ ■ あまり ■ 全く ■ 分からない

児童：チャイム席を守ったり、みんなに聞こえる声で発表したり、相手の話をしっかり聞いたりしていますか。

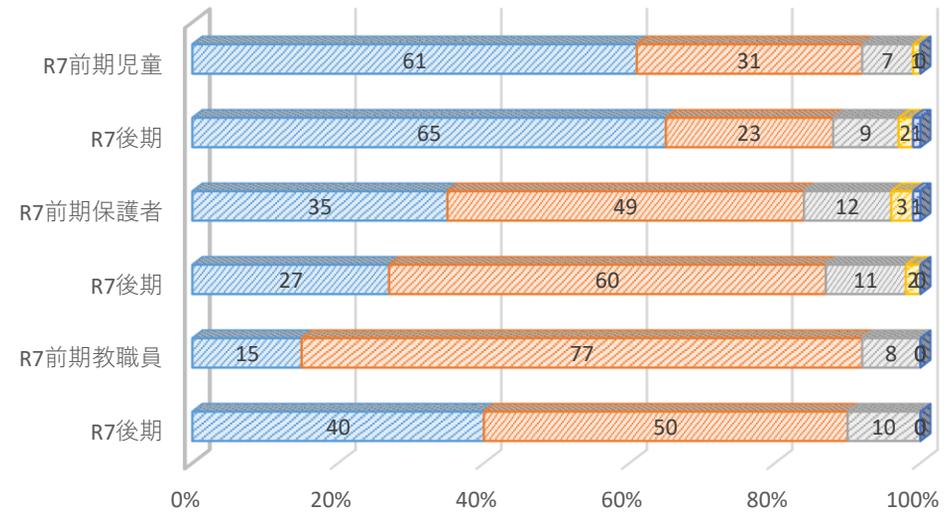
教職員：児童は、チャイム席を守ったり、望ましい話し方・聞き方をしたりして学習に取り組んでいる。



児童：家庭学習に、毎日取り組んでいますか。

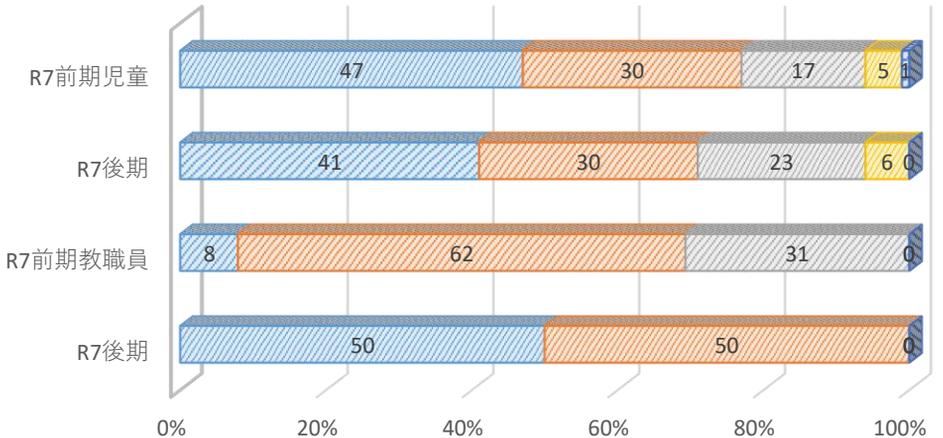
保護者：子どもたちは、家庭学習の習慣が身についていますか。

教職員：児童は、家庭学習の習慣が身についている。



児童：授業中に、進んで発表したり話し合ったりしていますか。

教職員：児童は、課題解決型の授業を通して、進んで発表したり話し合ったりしている。

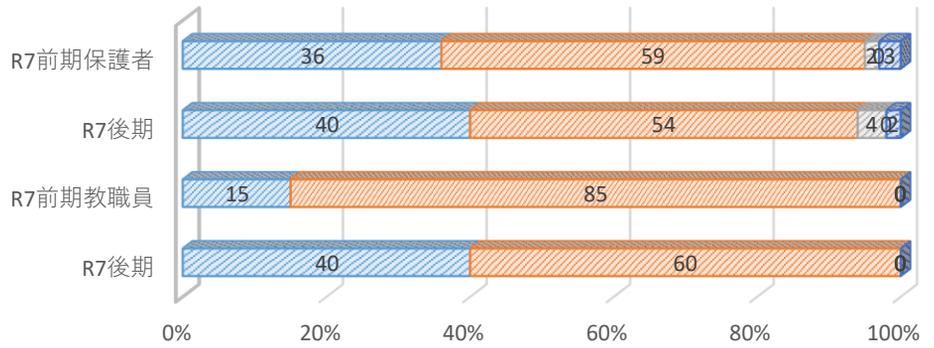


【評価指標（6）】 学習への取組

■ そう思う ■ まあまあ ■ あまり ■ 全く ■ 分からない

保護者：学校は、ぐんぐんタイムや長木検定、補修時間等を通して、子どもたちの基礎学力の定着に力を入れていますか。

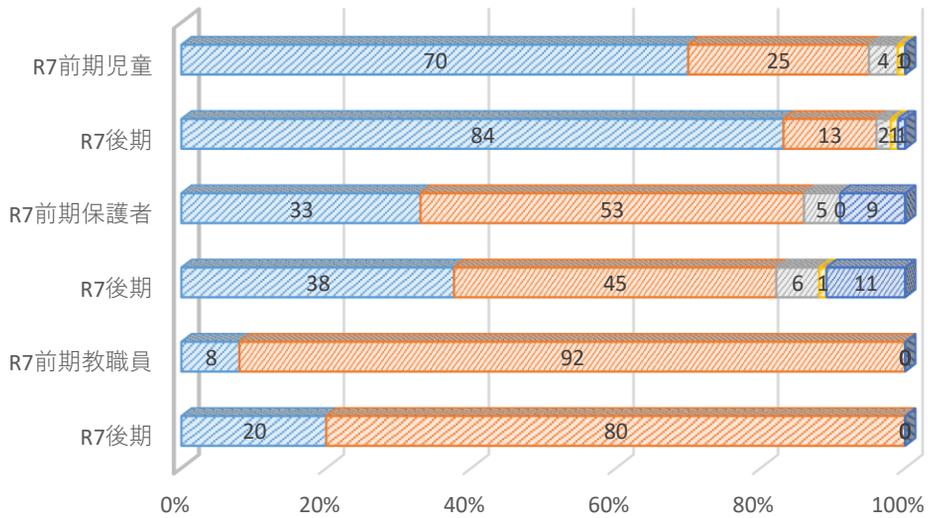
教職員：ぐんぐんタイムや長木検定、補修時間等の取組によって、児童の基礎学力の定着・向上が図られている。



児童：先生がたは、勉強をわかりやすく教えてくれますか。

保護者：学校は、わかりやすい授業を提供していますか。

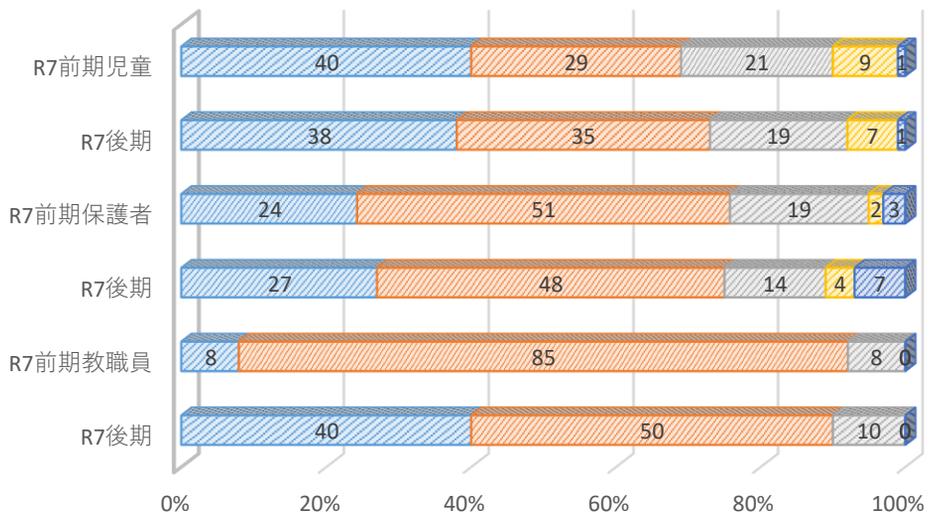
教職員：児童にわかりやすい授業を提供できている。



児童：学校や家で、進んで読書をしていますか。

保護者：学校は、読書運動・週末読書・よむよむリストの活用等、子どもたちに読書の習慣が身につく取組を推進していますか。

教職員：学校は、児童が進んで読書をする取組を推進している。



IV 項目別評価

4 ふるさとキャリア教育

児童の状況		自己評価 A	学校関係者 評価	学校関係者評価委員のコメント
ふるさとに誇りと愛着をもち、ふるさとに生きようとする気概をもっている。	前期	良好	良好	地域と関わる活動が充実しているが、児童が真にやりたいことを精選しながら、取り組んでほしい。シンNAGAKIオリンピックの取組は素晴らしいが、雪沢地区との温度差を埋めるために学校からのアピールがもっと必要だった。子どもハローワークを活用して、運動会の運営に中学生を協力させたい。大人の働きを学べる機会になる。
	後期	良好	極めて良好	演奏の真似をしているくらい保育所園児は鳳凰太鼓に憧れをもっている。地域へ元気を届けるといふ子どもたちの貢献はたいへん大きい。栽培・販売活動においては失敗体験も必要。失敗から学ぶこともたくさんある。成功させようと大人が先回りしない方がよい。地域コーディネーター高齢化に伴う世代交代が課題である。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期】昨年度から取組の明確化を図り、元の2つの指標「命輝け、エゾポップJ」と「伝統芸能の取組」を併せ、評価指標(8)「ふるさと教育・地域貢献の取組」に変更したものである。(8)、(9)の評価指標とも保護者の肯定的な割合がさらに高まり、ふるさとキャリア教育の推進の成果が現れている。

児童への質問「あじさいやお花の世話、太鼓演奏への取組」の、肯定ポイントが+14(71→85)に上がったのは、全校挙げてのあじさいのお世話活動が定着してきたこと、学級花壇のお世話が丁寧になされていることの効果かと考えられる。

保護者・教職員共に、この2項目については、肯定評価がほぼ100%である。活動内容や児童の取組がきちんと保護者に周知・浸透しているものと思われる。地域行事や各町内との更なる連携の模索が今後の課題である。

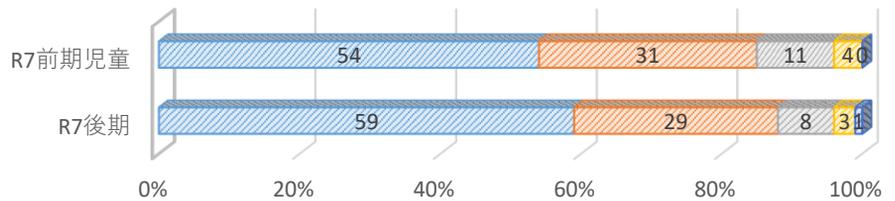
【年度】2学期は、学習発表会、長木公民館祭、キリタンポ祭り、地域の施設訪問、まち探検等、校外での活動が盛んに行いやすい時期である。校外での活動を通して、多くの人と関わり自分を表現することで、さらに自信を付けたり、前向きに取り組む力が伸びてきたりしていることを児童・保護者共に感じている評価と捉えている。鳳凰太鼓への児童の強い思いには確固たるものがある。太鼓演奏やその継承を通して、大きく成長する児童が多い。あじさいPJや施設訪問、地域を調べる活動も、鳳凰太鼓同等に児童にとって、大きなインパクトのあるものになるよう、活動の検討・洗練を図っていきたい。

評価指標	評価指標の内容	主な取組	自己評価 B	
			R7 前期	R7 後期
(8)ふるさと教育・地域貢献の取組	⑮あじさいPJの推進 鳳凰太鼓、鹿島太鼓の伝承	地域おこしPJへの全校体制での参加 全校ふるさと学習 地域を調べる活動 鳳凰太鼓の継承と地域での演奏 伝承クラブによる鹿島太鼓の継承	4.3	4.4
(9)キャリア教育の推進	⑯協働実践へのアプローチ	町探検 地域の施設訪問 栽培及び販売活動 子どもハローワークの推進 地域ボランティア活動への参加	4.3	4.4

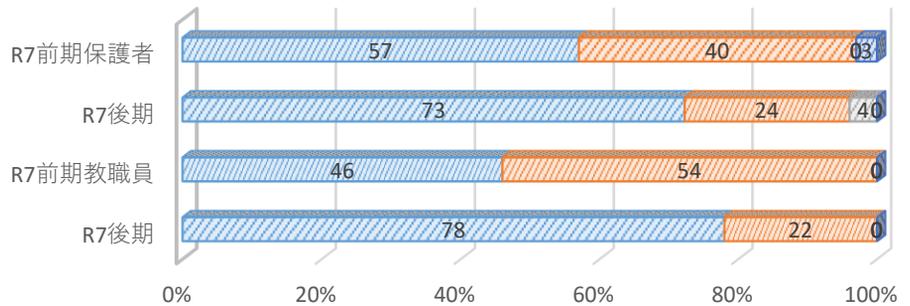
【評価指標（8）】ふるさと教育・地域貢献の取組

■ そう思う ■ まあまあ ■ あまり ■ 全く ■ 分からない

児童：あじさいやお花のお世話、鳳凰太鼓・鹿島太鼓の演奏に、進んで取り組んでいますか。



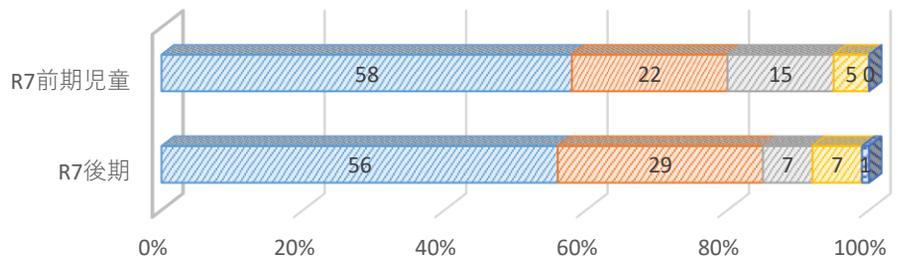
保護者、教職員：学校は、あじさいPJやエゾタンポポPJ、鳳凰太鼓・鹿島太鼓等の活動を通して、子どもたちにふるさとを愛し、誇りに思う気持ちを育てていますか。



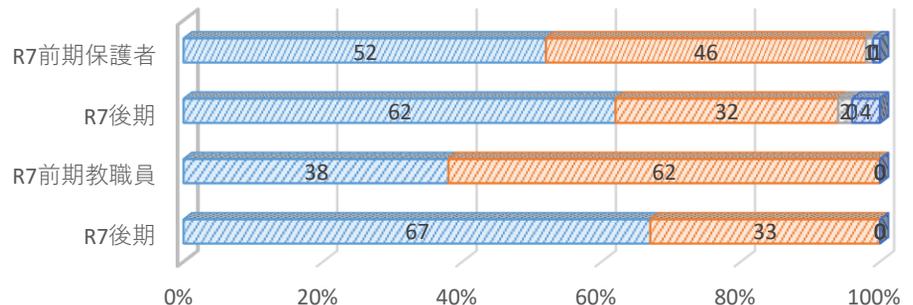
【評価指標（9）】キャリア教育の推進

■ そう思う ■ まあまあ ■ あまり ■ 全く ■ 分からない

児童：水交苑訪問、トウモロコシ栽培・販売活動、地域の方々と交流する活動や子どもハローワークに、積極的に取り組んでいますか。



保護者、教職員：ふるさととキャリア教育を通して、互いの良さを認め合い、協力して取り組もうとする気持ちを子どもたちに育てていますか。



IV 項目別評価

5 保護者・地域との連携

児童の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組がわかりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力を有効に活用している。	前期	良好	良好	市内他校と見比べているが、ホームページがたいへん充実している。地域との連携の様子が確かに伝わってくる。教頭の努力の賜物。学校報の校長のページも毎月楽しみにしている。
	後期	良好	良好	学校報は見づらい。文字量が多く小さい。もっとビジュアル面に振り切っているのではないかと。伝えたいことを絞って見やすい紙面作りを。省略した部分はQRコードで対応する。発信は重要。伝えたいことは、くどいくらいに発信する。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期】保護者・地域との連携については、保護者アンケートの3項目の肯定的回答の割合が高い数値で推移しており、概ねよい評価をいただいている。学校報・ホームページや学年通信、保健だよりなどで子どもたちの様子を保護者に伝えてきたことが評価されたのだと感じている。

課題は、保護者アンケート⑩に見られる「保護者の意見を学校運営に生かす」ことである。初めて公民館と合同で開催した運動会を「学校の運動会らしくない」と評価する方に、今後地域や学校が縮小していくことが予想される中で、学校が果たす役割について理解してもらおう努力を続けることで、こうした取組の意義についても理解を求めていきたい。保護者と共にWell-beingな学校づくりに取り組むことで、長木小学校が改めて地域の学校となり、ひいては地域の新たな教育風土の醸成につながっていくよう、保護者・地域との連携をさらに深めていきたい。

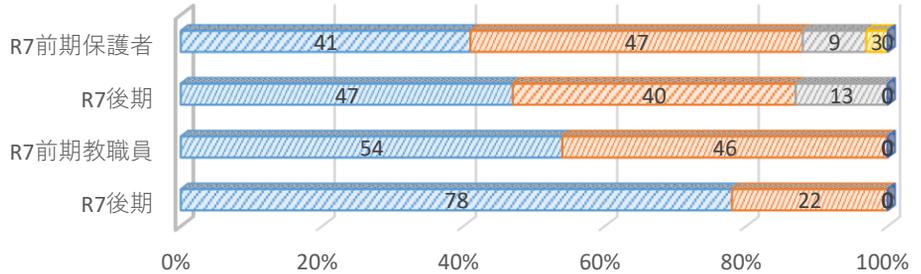
【年度】保護者の評価が着実に伸びている項目があるが、教職員の評価の伸びとの乖離が見られる。学校側の取組みの自負ほどには、保護者に届いていない。「積極的な情報伝達」「保護者の意見の学校運営への反映」については「あまり」という評価がやや目に付く。各種お便り類、tetoruによる周知、ホームページの充実を丁寧に行っていききたい。今年度は熊対策に追われ、保護者への依頼が頻発した。児童の安全を保障するための取組みは、明確且つ迅速な判断でこれからも保護者へ伝えていきたい。保護者の意見については実現できる／できないものがあるのは当然だが、その根拠を明確にしながら保護者へ伝えつつ、効果的に学校運営に反映させていく柔軟性をもって、学校経営に努めたい。

評価指標	評価指標の内容	主な取組	自己評価 B	
			R 7 前期	R 7 後期
(10) 地域・家庭との連携	⑪ 家庭・地域への情報発信、相互理解	学校報の地区配布 「みんなの登校日」の設定 ホームページ・ブログ・メールでの情報発信	4.2	4.2
	⑫ 保護者、地域との連携	P T A 活動の推進 エゾポップくらぶ 地域行事への参加 保育所・公民館との連携 民生委員・運営協議会の授業参観		
	⑬ 家庭・地域の意見の活用	学校運営協議会の実施 学校評価アンケートの実施と活用 学校報の感想記入欄の設定		
(11) 地域の教育力の活用	⑭ 地域人材や素材の活用	長木小応援チームとの連携 正課クラブ指導者との連携 雪沢・長木両地区の見学施設の新規開拓	4.4	4.5

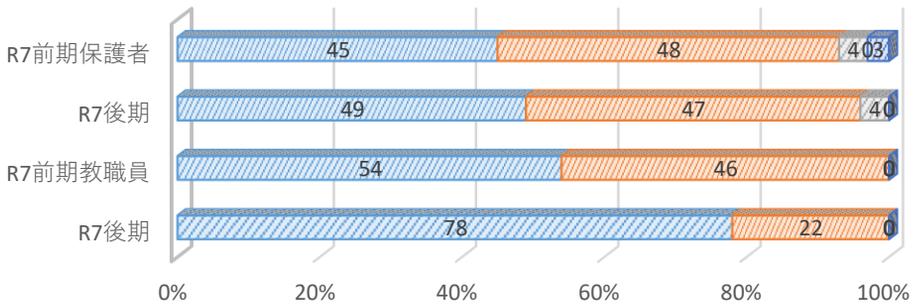
【評価指標（10）】 家庭・地域との連携

■ そう思う ■ まあまあ ■ あまり ■ 全く ■ 分からない

保護者、教職員：学校は、学校報・学年だより・保健だより・ホームページや日常の情報交換等を通じて、学校や子どもたちの様子を積極的に伝えていますか。

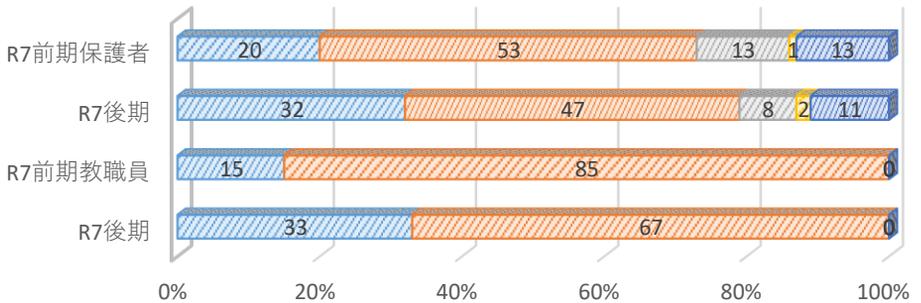


保護者、教職員：学校は、PTA活動（各専門部や各奉仕活動等）・エゾポップくらぶ、保育所・公民館との交流等を通して、保護者や地域との連携を図っていますか。



保護者：学校は、保護者の意見を学校運営に生かしていますか。

教職員：保護者や運営協議会、教職員の意見が学校運営に反映されている。



【評価指標（11）】 地域の教育力の活用

保護者、教職員：学校は、地域の教育力（岱野駅前PJや応援チーム、正課クラブの指導者の力、その他人材や素材）をよく活用していますか。

